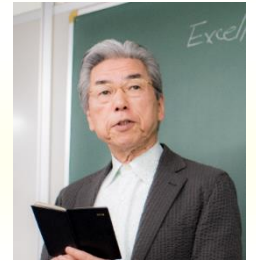


# 人生 100 年社会



前シビル NPO 連携プラットフォーム常務理事  
 (株) アイ・エス・エスグループ本社相談役  
 NPO 法人 SLIM Japan 理事長

(財) 人生 100 年社会デザイン財団理事 **中村 裕司**

## ■新財団のご紹介と CNCP

2020 年 10 月 1 日、(財)『人生 100 年社会デザイン財団』が発足しました。

この財団は、東京大学名誉教授・神野直彦先生(財政学)と東京大学大学院教育学研究科教授・牧野篤先生(生涯教育)のお二人を代表者に頂き、人生 100 年時代の個人の生き方と社会制度のあり方を構想しようとする財団です。

きっかけは、2 年ほど前に CNCP 通信に寄稿させて頂いた『Gerontology』でした。日本語では当時『老年学』と訳されていたその研究領域に興味を抱くと同時に、Gerontology を老年学という医療領域だけでなく、「高齢社会工学」という、ニュアンスが civil engineering に近い領域まで広げたいと考えておりました。

そこで行き着いたのが、当時東京大学にできていた「高齢社会総合研究機構」でした。その副機構長であった牧野先生と知己を得、その縁から CNCP サロンに牧野先生をお迎えし講演を頂きました。

爾来 1 年余、多くの方々のお知恵とお力を得ながら、牧野先生のご発案により財団設立の機運が盛り上がり、約半年間準備作業を進めた末、10 月の発足に漕ぎつけた次第です。

## ■財団を取り巻く背景

2018 年 6 月内閣府に「人生 100 年時代構想会議」が設立されて以降、「人生 100 年時代」を謳う情報が氾濫しています。『Life Shift』の著者リンダ・グラットン教授と小泉進次郎氏の対談の影響もあり、その後「100歳人生」「100年時代」等をタイトルにした本がずら一と並ぶようになりました。

が、その本の内容は“健康で長生きするための養生訓”であったり、“100年生きるためにいくらお金が必要か”、あるいは“高齢者はどのように残りの時間を充実して生きるべきか”などといったノウハウ本がほとんどです。いわば、長い老後をいかに賢く生き抜くかのための「老後人生の対策」を述べたものが目立ちます。

他方、上の構想会議に呼応するように、「人生100年時代」を取り上げた研究や調査も少なからず見受けられるようになりました。だが、新財団で取り上げる「人生 100 年社会」は「人生 100 年時代」とは似て非なる議論となるでしょう。それは「社会」という単語が「時代」という単語と異なるように、です。

## ■人生 100 年社会とは？

財団の研究では、「人間の共同生活」の総称を社会ととらえ、人間の集団としての営みや組織的な営みを社会と考えます。つまり人間が一つの共同空間に集まっている状態、またその集まっている人と人とのあいだの結びつきをして社会と称します。

したがって、「人生 100 年社会」とは 100 年以上生きることが前提となった人間の集まっている共同空間・組織と、そこに生きる人間の結びつきを議論の対象として取り扱います。「人生 100 年時代」に対し、「人生 100 年社会」のほうは有形無形に関わらず“空間・組織”と“むすびつき”を対象にする点が特徴です。

## ■「ありうる人生 100 年社会」の構図

未来には、「ありたい未来」「あるべき未来」「ありうる未来」があります。人生 100 年社会では「ありうる 100 年社会」の構図を描きます。

逆に、今すぐ思い付く「あってはならない未来」や「今後ありえない未来」については、いろんな書物になかで次のように言われています。カッコ内は著書名です。

- ①65歳で伐採する社会(シン・ニホン)
- ②AI-ready化ができていない社会(同)
- ③3段階一方通行ステージ社会(ライフ・シフト)
- ④エイジ=ステージという図式の社会(同)
- ⑤つながらない社会(持続可能な「人生100歳社会」に向けて)
- ⑥高齢者対応の諸制度 only な社会(ライフ・シフト)
- ⑦ホワイトカラー志向社会(働き方5.0)
- ⑧意識だけ高い系社会(同)

## ■今後の活動

財団は、アカデミー事業、Re-Vive コミュニティ事業、アクレディテーション事業の三つを軸に、これから活動を進めて参ります。財団にはおよそ20名ほどの著名な先生方、官界の方、産業界の方に名を連ねて頂いております。今後も活動状況について CNCP の皆様と情報を共有させて頂ければ幸いです。

追記:私は、先の総会において理事を退任させて頂きました。2年間有難うございました。新任は横塚雅実氏です。これからも応援をしていく所存です。

